

5. 取組を運営するためのヒント - 子ども・保護者・地域の主体化

特定非営利活動法人ビーンズふくしま

「いつまでも被災者でいたくない。」「俺たちは物をもらっているだけでは駄目だ。」被災した方々や、仮設住宅の自治会長さんが語った言葉です。

本当であれば、自らが望む形で、自立して生活していた皆さんです。ところが、故郷に帰ることも許されず、生きがいや自信や誇りを奪われ、先行きの見通しもわからない。支援は必要としているが、一方で支援を受け続けることへの葛藤もあります。

私達は、父母や住民の方々、自治会の役員の方と、共に子どもを育て、見守り、その地域を支えていくことに伴走し続ける立場で関わり続けてきました。長期化する避難生活の中で、確かに疲れも生まれてきています。しかし、一方でまだまだ負けないという気概で、住民主体のいろいろな工夫や取組の支援も行っています。



自治会の方による
子どもの見守り



仮設住宅内での水耕
栽培による農業と生き
がいづくりに、子ども・
高齢者も参加。
秋には収穫祭も実施。



学期毎や大きな行事の前には
保護者会を実施。
取組の説明や意見交換を実施
したり、協力のための話し合い
を行っています。